

1 敬語表現の種類

- (1) 尊敬
- (2) 謙譲
- (3) 丁寧

2 敬意の主体（誰から）と対象（誰へ）

- (1) 主体（誰から）
 - ① 会話文 〃
 - ② 地の文 〃
- (2) 対象（誰へ）
 - ① 尊敬 〃
 - ② 謙譲 〃
 - ③ 丁寧
 - (a) 会話文
 - (b) 地の文

3 主な敬語

動詞	語	尊敬語	謙譲語
をあり	おはす・おはし ます・まはし	におっしゃる・おいで	はつべ つかかり まつる つふる おそばに仕える
聞く	きこす・きこしめす	お聞きになる	つけたまはる お聞きする
言ふ	まはす・おほす はす・ほす	おっしゃる	奏申す・啓聞すこゆ 申し上げる
見る	こらんす	ご覧になる	
思ふ	おほす・おほしめす	お思いになる	存す 存じあげる
行来く・	おはす・おはしま す	いらつしゃる・おい でになる	まかふる・まかつ うかがう・参る・参 上する
出づ			まかふる・まかつ 退出する
与ふ	たまふ・たふ	お与えになる	まふる・まらたてまつ 差し上げる・献上す る
受く			たまはる・はるまふ いただく
着る	めす・たてまつる	お召しになる	
飲食 むふ	まきこしめす・めす・ まみる・たてまつる	召し上がる	たまふ いただく
乗る	めす・たてまつる	お乗りになる	
呼ぶ	めす	お呼びになる	

	知る	しめしめす	お知りになる	
	寝	大殿籠もる	お休みになる	
	す	あそばす	なさる	つかまつる・まゐる おしやる・しよしてさ しあげる
補助動詞	おたはます・おはします・おはし	おくになる・しよす ていらつやる	・申す・たてまつる (下二段)	おしよる・おしよる・お しよる
助動詞	る・らる・す・さす・しむ	おくになる		

4 ・注意すべき敬語

- (1) たまふ ① ② ③ ④
- (2) はべり・さぶらふ ① ② ③ ④
- (3) たてまつる ① ② ③ ④
- (3) 申す・聞こゆ ① ② ③
- (4) まゐる ① ② ③ ④
- (5) まつづ ① ② ③ ④
- (6) まかる・まかつ ① ②
- (7) めす ①
- (8) 奏す ①
- (9) 啓す ①

5 ・注意すべき敬意表現

- (1) 謙讓語 + 尊敬語 ・身分の高い二人に敬意表現をする場合、謙讓語で一旦より身分の低い人を低めてより身分の高い人に敬意を表し、次いで尊敬語でより身分の低い人を高めて敬意を表する。

かぐや姫、いみじく静かにおほ^{天皇}やけに文たてまつりたまふ。

- (2) 謙讓語 + 丁寧語 ・会話の中で用いる。
- (3) 尊敬語 + 丁寧語 ・会話の中で用いる。
- (4) 尊敬語 + 尊敬語 ・最高敬語。天皇や皇后など最高階級の人の場合に用いる。

(希は) いとこまやかにありたま問はせたまふ。

次の文の敬語について、種類と主体と対象を答えよ。

(1) (翁がかぐや姫に) 「朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて、知りぬ」

(2) (頼清が永秀に) 「たよりあらむことは、^{頼むにできること}はば^{遠慮なく}からずのたまはせよ」

(3) ^{天皇}上のおはしまして大殿籠りたり。

(4) (隆家殿は) 杯を取り給ひて、^{召置}あまたたび召し、

(5) ^{右馬頭なる翁}つかまつれり。

(6) (豊海上人が神官に) 「ちとつけたまは^{しだい}らばや」

(7) かぐや姫いといたく泣き給ふ。

(8) 魂は朝夕に給ふれどわが胸痛し恋のしげきに

(9) 女御・更衣あまた(帝に) 候ひ給ひける中に

(10) (僧都が尼君に) 「ただ今なむ聞きつけ侍る」

(11) (天人が) 「(かぐや姫が) 壺なる御葉奉れ」

(12) (尼君は仏に) ^{まだけ}簾少し上げて、花奉るめり。

(13) 身を捨てて^{ぬか}額をつき、(私が仏像に) 祈り申すほどに、

(14) (命婦が) ^{しみじみとしたこと}あはれなること、^{ひそかに}恐びやかに奏す。

(15) (道長殿が花山天皇に) ^{平甚と}つれなく申し給ふに、

(16) (中宮様が) 「^{夜は}夜ぞりは^{早く}とく」と仰せらる。

(17) (兼家殿が) 「(帝のいる) ^{御所}内裏へ参らせ給ひぬ」

1. 敬語表現の種類

- (1) 尊敬
 - ・動作をする人(主語)を高める。
 - ・「オノナル・ノナル」と訳す。
- (2) 謙譲
 - ・動作をする人を低めて、動作を受ける人(目的語)を高める。
 - ・「オノスル・ノ申シ上ゲル」と訳す。
- (3) 丁寧
 - ・直接相手に敬意を表す。
 - ・「ノデス・ノマス・ノテゴザイマス」と訳す。

2. 敬意の主体(誰から)と対象(誰へ)

- (1) 主体(誰から)
 - ① 会話文 ≡ 話し手
 - ② 地の文 ≡ 作者
- (2) 対象(誰へ)
 - ① 尊敬 ≡ 動作をする人。主語(ノガ)に当たる人。
 - ② 謙譲 ≡ 動作を受ける人。目的語(ノラ・ノニ)に当たる人。
 - ③ 丁寧 (a) 会話文 ≡ 聞き手
(b) 地の文 ≡ 読者

3. 主な敬語

語	尊敬語	謙譲語
をり	おはす・おはし ます・おはし	はつ・はつかり・はつまる・はつらふ
聞き	きこす・きこしめす	つけたまはる
言ふ	まはす・おほす はす・おほす	奏す・啓聞すこゆ
見る	こらんす	
思ふ	おほす・おほしめす	存す
行来	おはす・おはしま す	まかふる・まかつ まかふる・まかつ
出づ		まかふる・まかつ
与ふ	たまふ・たふ	まふる・まらす ふる・まらす
受く		たまはる・たまはる つげたまはる
着る	めす・たてまつる	
飲食	まきこしめす・めす まふる・たてまつる	たまふ
乗る	めす・たてまつる	
呼ぶ	めす	

	知る	しめしめす	お知りになる		
	寝	大殿籠もる	お休みになる		
	す	あそばす	なさる	つかまつる・まゐる	おしあげる・ししてさ
補助動詞	おたはますふ(四段)・おはします	ておしになる・し ていらつしやる		・申す・聞こゆ(下二段ゆた)・たまふ	しおし上げる・おする
助動詞	る・らる・す・さす・しむ	おしになる			

4・注意すべき敬語

- (1) たまふ ①「与ふ」の尊敬語 ②尊敬の補助動詞(四段)
③「受く」の謙讓語 ④謙讓の補助動詞(下二段)
- (2) はべり・さぶらふ ①「あり・おり」の謙讓語 ②「仕ふ」の謙讓語
③「あり・おり」の丁寧語 ④丁寧の補助動詞
- (3) たてまつる ①「食う・飲む・乗る・着る」の尊敬語
②「与ふ」の謙讓語 ③謙讓の補助動詞
- (3) 申す・聞こゆ ①「言う」の謙讓語 ②謙讓の補助動詞
- (4) まゐる ①「食う・飲む」の尊敬語
②「行く・来る」の謙讓語
③「与ふ」の謙讓語 ④「す」の謙讓語
- (5) まうつ ①「行く」の謙讓語
- (6) まかる・まかつ ①「行く」の謙讓語 ②「出づ」の謙讓語
- (7) めす ①「食う・飲む・乗る・着る・呼ぶ」の尊敬語
- (8) 奏す ①天皇・上皇に「言う」の謙讓語。絶対敬語。
- (9) 啓す ①皇后・皇太子に「言う」の謙讓語。絶対敬語。

5・注意すべき敬意表現

- (1) 謙讓語 + 尊敬語 ・身分の高い二人に敬意表現をする場合、謙讓語で一旦より身分の低い人を低めてより身分の高い人に敬意を表し、次いで尊敬語でより身分の低い人を高めて敬意を表する。

かぐや姫、いみじく静かに^{天皇}おほやけに文たてまつりたまふ。

- (2) 謙讓語 + 丁寧語 ・会話の中で用いる。
- (3) 尊敬語 + 丁寧語 ・会話の中で用いる。
- (4) 尊敬語 + 尊敬語 ・最高敬語。天皇や皇后など最高階級の人の場合に用いる。

(帝は)いとこまやかにありさま問はせたまふ。